

ページなど

P34
表-4.5

誤

4.3 主桁・連結部の検討

4.3.1 荷重分配の計算
(省略)

4.3.2 断面力の計算
(省略)

断面力の集計

表-4.5 断面力集計一覧表（主桁・連結部）

	主 桁（支間中央部）				連 結 部			
	曲げモーメント(kN・m)		せん断力(kN)		曲げモーメント(kN・m)		せん断力(kN)	
	G39	G38	G39	G38	G39	G38	G39	G38
主桁自重	66.2	66.2	35.2	35.2	-----	-----	-----	-----
間詰コンクリート自重	5.2	10.4	2.4	4.9	-----	-----	-----	-----
地 覆	3.5	3.0	3.0	2.5	-4.5	-3.9	3.0	2.5
車止め	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
舗 装	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
小 計	11.3	11.0	9.9	9.7	-15.0	-14.7	9.9	9.7
自重による不静定力	86.2	90.6	50.5	52.3	-19.5	-18.6	12.9	12.2
プレストレスによる不静定力	-21.1	-22.7	-4.9	-5.3	-52.5	-56.1	-4.9	-5.3
小 計	57.6	57.6	7.9	7.9	114.6	114.6	7.9	7.9
積載荷重	36.5	34.9	3.0	2.6	62.1	58.5	3.0	2.6
変 動 作 用	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----
積載荷重	126.5	123.9	88.9	87.1	-143.8	-140.9	88.9	87.1
自動車	137.7	132.5	101.5	97.9	-118.8	-114.5	101.5	97.9
荷 重	157.5	143.1	116.1	106.0	-168.5	-153.8	116.1	106.0
フォークリフト	208.6	185.5	119.0	106.2	-104.0	-92.8	119.0	106.2
荷 重	184.2	158.4	130.2	113.0	-108.1	-93.8	130.2	113.0

※ レベル1地震動作用時、揚圧力作用時の各断面力は別途集計した。

正

4.3 主桁・連結部の検討

4.3.1 荷重分配の計算
(省略)

4.3.2 断面力の計算
(省略)

断面力の集計

表-4.5 断面力集計一覧表（主桁・連結部）

	主 桁（支間中央部）				連 結 部			
	曲げモーメント(kN・m)		せん断力(kN)		曲げモーメント(kN・m)		せん断力(kN)	
	G39	G38	G39	G38	G39	G38	G39	G38
主桁自重	66.2	66.2	35.2	35.2	-----	-----	-----	-----
間詰コンクリート自重	5.2	10.4	2.4	4.9	-----	-----	-----	-----
地 覆	3.5	3.0	3.0	2.5	-4.5	-3.9	3.0	2.5
車止め	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
舗 装	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
小 計	11.3	11.0	9.9	9.7	-15.0	-14.7	9.9	9.7
自重による不静定力	86.2	90.6	50.5	52.3	-19.5	-18.6	12.9	12.2
プレストレスによる不静定力	-21.1	-22.7	4.9	5.3	-52.5	-56.1	4.9	5.3
小 計	57.6	57.6	-7.9	-7.9	114.6	114.6	-7.9	-7.9
積載荷重	36.5	34.9	-3.0	-2.6	62.1	58.5	-3.0	-2.6
変 動 作 用	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----
積載荷重	126.5	123.9	88.9	87.1	-143.8	-140.9	88.9	87.1
自動車	137.7	132.5	101.5	97.9	-118.8	-114.5	101.5	97.9
荷 重	157.5	143.1	116.1	106.0	-168.5	-153.8	116.1	106.0
フォークリフト	208.6	185.5	119.0	106.2	-104.0	-92.8	119.0	106.2
荷 重	184.2	158.4	130.2	113.0	-108.1	-93.8	130.2	113.0

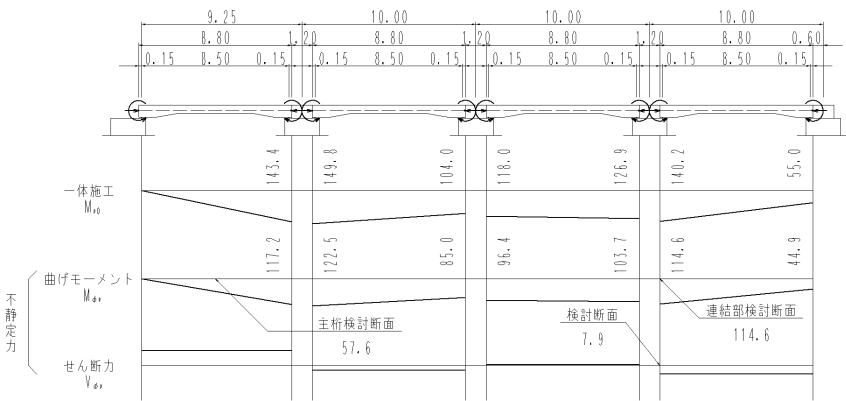
※ レベル1地震動作用時、揚圧力作用時の各断面力は別途集計した。

ページなど	誤	正
P60 図-4.36	(寸法線 : m) せん断力 $V_{\phi d} = \frac{0(-51.6)}{8.65} \quad V_{\phi d} = \frac{-54.3(-41.4)}{8.80} \quad V_{\phi d} = \frac{-47.1(-47.8)}{8.80} \quad V_{\phi d} = \frac{-56.1(-9.7)}{8.80}$ = 6.0 kN = -1.5 kN = 0.1 kN = -5.3 kN (5.6 kN) (-1.4 kN) (0.1 kN) (-4.9 kN) ※ ()外の値はG38 (中桁) , ()内の値はG39 (外桁) を示す。	(寸法線 : m) せん断力 $V_{\phi d} = \frac{-51.6-0}{8.65} \quad V_{\phi d} = \frac{-41.4(-54.3)}{8.80} \quad V_{\phi d} = \frac{-47.8(-47.1)}{8.80} \quad V_{\phi d} = \frac{-9.7(-56.1)}{8.80}$ = -6.0 kN = 1.5 kN = -0.1 kN = 5.3 kN (-5.6 kN) (1.4 kN) (-0.1 kN) (4.9 kN) ※ ()外の値はG38 (中桁) , ()内の値はG39 (外桁) を示す。
	図-4.36 自重による不静定力図 (主桁1本当たり)	図-4.36 自重による不静定力図 (主桁1本当たり)

ページなど

P61
図-4.37

誤



(寸法線 : m)

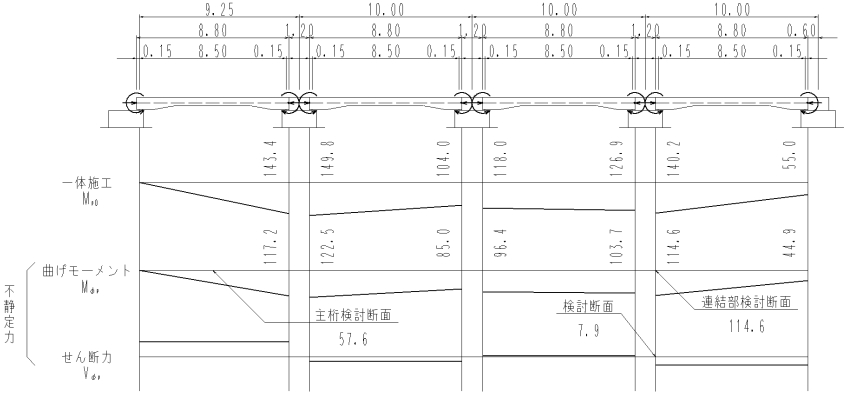
せん断力

$$V_{op} = \frac{0-117.2}{8.65} \quad V_{op} = \frac{122.5-85.0}{8.80} \quad V_{op} = \frac{96.4-103.7}{8.80} \quad V_{op} = \frac{114.6-44.9}{8.80}$$

= -13.5 kN = 4.3 kN = -0.8 kN = 7.9 kN

図-4.37 プレストレスによる不静定力図（主桁1本当たり）

正



(寸法線 : m)

せん断力

$$V_{op} = \frac{117.2-0}{8.65} \quad V_{op} = \frac{85.0-122.5}{8.80} \quad V_{op} = \frac{103.7-96.4}{8.80} \quad V_{op} = \frac{44.9-114.6}{8.80}$$

= 13.5 kN = -4.3 kN = 0.8 kN = -7.9 kN

図-4.37 プレストレスによる不静定力図（主桁1本当たり）

ページなど

P79
表-4.23

表-4.23 断面力集計一覧表（主桁・連結部）

	主 桁（支間中央部）				連 結 部			
	曲げモーメント(kN・m)		せん断力(kN)		曲げモーメント(kN・m)		せん断力(kN)	
	G39	G38	G39	G38	G39	G38	G39	G38
永続作用	主桁自重	66.2	66.2	35.2	35.2	----	----	----
	間詰コンクリート自重	5.2	10.4	2.4	4.9	----	----	----
	地 覆	3.5	3.0	3.0	2.5	-4.5	-3.9	3.0
	陸側							2.5
	海側	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	車止め	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	舗 装	11.3	11.0	9.9	9.7	-15.0	-14.7	9.9
	小 計	86.2	90.6	50.5	52.3	-19.5	-18.6	12.9
	自重による不静定力	-21.1	-22.7	-4.9	-5.3	-52.5	-56.1	-4.9
	プレストレスによる不静定力	57.6	57.6	7.9	7.9	114.6	114.6	7.9
変動作用	小 計	36.5	34.9	3.0	2.6	62.1	58.5	3.0
		----	----	----	----	----	----	----
	積載荷重	126.5	123.9	88.9	87.1	-143.8	-140.9	88.9
	自動車の法線平行方向載荷	137.7	132.5	101.5	97.9	-118.8	-114.5	101.5
	荷 重の法線直角方向載荷	157.5	143.1	116.1	106.0	-168.5	-153.8	116.1
	フォークリフトの法線平行方向載荷(衝撃含)	208.6	185.5	119.0	106.2	-104.0	-92.8	119.0
	荷 重の法線直角方向載荷(衝撃含)	184.2	158.4	130.2	113.0	-108.1	-93.8	130.2
		----	----	----	----	----	----	----

※ レベル1地震動作用時，揚圧力作用時の各断面力は別途集計した。

正

表-4.23 断面力集計一覧表（主桁・連結部）

	主 桁（支間中央部）				連 結 部			
	曲げモーメント(kN・m)		せん断力(kN)		曲げモーメント(kN・m)		せん断力(kN)	
	G39	G38	G39	G38	G39	G38	G39	G38
永続作用	主桁自重	66.2	66.2	35.2	35.2	----	----	----
	間詰コンクリート自重	5.2	10.4	2.4	4.9	----	----	----
	地 覆	3.5	3.0	3.0	2.5	-4.5	-3.9	3.0
	陸側							2.5
	海側	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	車止め	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	舗 装	11.3	11.0	9.9	9.7	-15.0	-14.7	9.9
	小 計	86.2	90.6	50.5	52.3	-19.5	-18.6	12.9
	自重による不静定力	-21.1	-22.7	4.9	5.3	-52.5	-56.1	4.9
	プレストレスによる不静定力	57.6	57.6	-7.9	-7.9	114.6	114.6	-7.9
変動作用	小 計	36.5	34.9	-3.0	-2.6	62.1	58.5	-3.0
		----	----	----	----	----	----	----
	積載荷重	126.5	123.9	88.9	87.1	-143.8	-140.9	88.9
	自動車の法線平行方向載荷	137.7	132.5	101.5	97.9	-118.8	-114.5	101.5
	荷 重の法線直角方向載荷	157.5	143.1	116.1	106.0	-168.5	-153.8	116.1
	フォークリフトの法線平行方向載荷(衝撃含)	208.6	185.5	119.0	106.2	-104.0	-92.8	119.0
	荷 重の法線直角方向載荷(衝撃含)	184.2	158.4	130.2	113.0	-108.1	-93.8	130.2
		----	----	----	----	----	----	----

※ レベル1地震動作用時，揚圧力作用時の各断面力は別途集計した。

ページなど	誤	正
P86	2) 斜め引張応力度の計算 $\sigma_I = \frac{\sigma_x + \sigma_y}{2} - \frac{1}{2} \sqrt{(\sigma_x - \sigma_y)^2 + 4\tau^2}$ $= \frac{(2.5+0)}{2} - \frac{1}{2} \sqrt{(2.5-0)^2 + 4 \times 2.0^2}$ $= -1.1 \text{ N/mm}^2 > \text{制限値 } \sigma_{Ia} = 0.75 \cdot 0.23 f_{ck}^{2/3}$ $= -2.3 \text{ N/mm}^2 \quad \text{※ 2.6 制限値 参照}$ ここに、σ_I : 斜め引張応力度 σ_x : 垂直応力度 斜め引張応力度の計算は、部材断面図心位置と垂直応力度が0の位置で行えばよい。ここでは、腹部内に垂直応力度が0となる位置がないため、部材断面図心位置について検討を行う。 $\sigma_x = P_e' / A_c = 718000 / 283600$ $= 2.5 \text{ N/mm}^2$ ここに、P_e' : 有効プレストレス (718.0 kN) $P_e' = P_e \times (10 / 14) \times (1.000 - 0.332)$ $= 1504.8 \times (10 / 14) \times (1.000 - 0.332)$ $= 718.0 \text{ kN}$ ※ 4.2 作用の条件 の主桁のプレストレスの計算結果より、 ボンドコントロール鋼材を控除（14本中の10本を考慮）し、PC鋼材の定着長を考慮（プレストレスが桁端から65φの位置から桁端にかけて0となるような放物線で減少する、桁端から1/2Hの位置では-33.2%）した有効プレストレスを用いた。 $A_c : \text{コンクリート総断面の断面積 (283600 mm}^2 \text{)}$ $\sigma_y : \sigma_x \text{ に直交する応力度}$ $\sigma_y = 0.0 \text{ N/mm}^2$ $\tau : \text{せん断応力度}$ $\tau = \frac{(V_{dd} - V_{pe}) \cdot Q}{b_w \cdot I} = \frac{(183700 - 0) \times 17960000}{240 \times 6820000000}$ $= 2.0 \text{ N/mm}^2$ ここに、V_{dd} : 変動作用時のせん断力 $V_{dd} = V_{d1} + V_{d2} + V_L$ $= 50.5 + 3.0 + 130.2$ $= 183.7 \text{ kN}$ ここに、4.3.2 断面力の計算 より、 $V_{d1} : \text{永続作用によるせん断力 (50.5 kN)}$ $V_{d2} : \text{不静定力によるせん断力 (3.0 kN)}$ $V_L : \text{変動作用によるせん断力 (130.2 kN)}$ $V_{pe} : \text{PC鋼材の引張力による鉛直成分 (0.0 kN)}$	2) 斜め引張応力度の計算 $\sigma_I = \frac{\sigma_x + \sigma_y}{2} - \frac{1}{2} \sqrt{(\sigma_x - \sigma_y)^2 + 4\tau^2}$ $= \frac{(2.5+0)}{2} - \frac{1}{2} \sqrt{(2.5-0)^2 + 4 \times 1.9^2}$ $= -1.0 \text{ N/mm}^2 > \text{制限値 } \sigma_{Ia} = 0.75 \cdot 0.23 f_{ck}^{2/3}$ $= -2.3 \text{ N/mm}^2 \quad \text{※ 2.6 制限値 参照}$ ここに、σ_I : 斜め引張応力度 σ_x : 垂直応力度 斜め引張応力度の計算は、部材断面図心位置と垂直応力度が0の位置で行えばよい。ここでは、腹部内に垂直応力度が0となる位置がないため、部材断面図心位置について検討を行う。 $\sigma_x = P_e' / A_c = 718000 / 283600$ $= 2.5 \text{ N/mm}^2$ ここに、P_e' : 有効プレストレス (718.0 kN) $P_e' = P_e \times (10 / 14) \times (1.000 - 0.332)$ $= 1504.8 \times (10 / 14) \times (1.000 - 0.332)$ $= 718.0 \text{ kN}$ ※ 4.2 作用の条件 の主桁のプレストレスの計算結果より、 ボンドコントロール鋼材を控除（14本中の10本を考慮）し、PC鋼材の定着長を考慮（プレストレスが桁端から65φの位置から桁端にかけて0となるような放物線で減少する、桁端から1/2Hの位置では-33.2%）した有効プレストレスを用いた。 $A_c : \text{コンクリート総断面の断面積 (283600 mm}^2 \text{)}$ $\sigma_y : \sigma_x \text{ に直交する応力度}$ $\sigma_y = 0.0 \text{ N/mm}^2$ $\tau : \text{せん断応力度}$ $\tau = \frac{(V_{dd} - V_{pe}) \cdot Q}{b_w \cdot I} = \frac{(17700 - 0) \times 17960000}{240 \times 6820000000}$ $= 1.9 \text{ N/mm}^2$ ここに、V_{dd} : 変動作用時のせん断力 $V_{dd} = V_{d1} + V_{d2} + V_L$ $= 50.5 + (-3.0) + 130.2$ $= 177.7 \text{ kN}$ ここに、4.3.2 断面力の計算 より、 $V_{d1} : \text{永続作用によるせん断力 (50.5 kN)}$ $V_{d2} : \text{不静定力によるせん断力 (-3.0 kN)}$ $V_L : \text{変動作用によるせん断力 (130.2 kN)}$ $V_{pe} : \text{PC鋼材の引張力による鉛直成分 (0.0 kN)}$

6

ページなど	誤	正
P100	○ V_{ped} : 軸方向緊張材の有効引張力のせん断力に平行な成分 $V_{ped} = 0.00 \text{ kN}$ 以上より, 部材のせん断耐力の設計用値は, $V_{yd1} = 87.03 + 468.69 + 0 = 555.7 \text{ kN}$ iv) 斜め圧縮破壊耐力の設計用値 V_{wcd1} $V_{wcd1} = f_{wcd} \cdot b_w \cdot d / \gamma_b$ ここに, $f_{wcd} = 1.25 \sqrt{f'_{cd}}$ $= 1.25 \sqrt{38.5}$ $= 7.76 \text{ N/mm}^2 \quad (\leq 7.8 \text{ N/mm}^2)$ f'_{cd} : コンクリートの設計基準強度 $f'_{cd} = f'_{ck} / \gamma_c = 50 / 1.3 = 38.5 \text{ N/mm}^2$ b_w : 腹部の幅 (240 mm) d : 有効高さ (375 mm) γ_b : 部材係数 (1.3) 以上より, 部材の斜め圧縮破壊耐力の設計用値は, $V_{wcd1} = 7.76 \times 240 \times 375 / 1.3 = 537231 \text{ N} = 537.2 \text{ kN}$ v) 安全性の検討 $\gamma_i \cdot V_{d1} / V_{yd1} = (1.2 \times 214.8) / 555.7 = 0.46 < 1.0$ $\gamma_i \cdot V_{d1} / V_{wcd1} = (1.2 \times 214.8) / 537.2 = 0.48 < 1.0$ ここに, γ_i : 構造物係数 (1.2)	○ V_{ped} : 軸方向緊張材の有効引張力のせん断力に平行な成分 $V_{ped} = 0.00 \text{ kN}$ 以上より, 部材のせん断耐力の設計用値は, $V_{yd1} = 87.03 + 468.69 + 0 = 555.7 \text{ kN}$ iv) 斜め圧縮破壊耐力の設計用値 V_{wcd1} $V_{wcd1} = f_{wcd} \cdot b_w \cdot d / \gamma_b$ ここに, $f_{wcd} = 1.25 \sqrt{f'_{cd}}$ $= 1.25 \sqrt{38.5}$ $= 7.76 \text{ N/mm}^2 \quad (\leq 7.8 \text{ N/mm}^2)$ f'_{cd} : コンクリートの設計基準強度 $f'_{cd} = f'_{ck} / \gamma_c = 50 / 1.3 = 38.5 \text{ N/mm}^2$ b_w : 腹部の幅 (240 mm) d : 有効高さ (375 mm) γ_b : 部材係数 (1.3) 以上より, 部材の斜め圧縮破壊耐力の設計用値は, $V_{wcd1} = 7.76 \times 240 \times 375 / 1.3 = 537231 \text{ N} = 537.2 \text{ kN}$ v) 安全性の検討 $\gamma_i \cdot V_{d1} / V_{yd1} = (1.2 \times 208.8) / 555.7 = 0.45 < 1.0$ $\gamma_i \cdot V_{d1} / V_{wcd1} = (1.2 \times 208.8) / 537.2 = 0.47 < 1.0$ ここに, γ_i : 構造物係数 (1.2)

ページなど

P102

表-4.33

誤

iii) 安全性の検討

表-4.33 セン断に対する検討結果

			左加力時		右加力時	
			桁端増厚部	標準部	桁端増厚部	標準部
作用断面積 (主桁1本当たり)	V_{d2} N_{d2}	kN kN	143.1 60.1	99.6 60.1	191.2 225.1	147.7 225.1
構造物係数	γ_i		1.2	1.2	1.2	1.2
せん断力の設計用値	$\gamma_i \cdot V_{d2}$	kN	171.7	119.5	229.4	177.2
腹部の幅	b_w	mm	640	240	640	240
有効高さ	d	mm	578	420	578	420
設計基準強度	f'_{ck}	N/mm ²	50	50	50	50
材料係数	γ_c		1.3	1.3	1.3	1.3
圧縮強度の設計用値	f'_{cd}	N/mm ²	38.5	38.5	38.5	38.5
	f_{wed}	N/mm ²	7.76	7.76	7.76	7.76
部材係数	γ_b		1.3	1.3	1.3	1.3
斜め圧縮破壊耐力	V_{wed2}	kN	2208.14	601.70	2208.14	601.70
β_d			1.147	1.242	1.147	1.242
β_p			1.032	0.585	1.032	0.585
引張鉄筋比	p_v		0.0110	0.0020	0.0110	0.0020
引張側鋼材の断面積	A_s	mm ²	4053.6	197.4	4053.6	197.4
β_n			1.018	1.330	1.069	1.544
M_0			7.01	23.10	26.26	38.07
有効プレストレス	P_e	kN	-----	1504.8	-----	1504.8
総断面の断面係数	W_L	m ³	0.05227	0.02573	0.05227	0.02573
総断面の断面積	A_c	m ²	0.4480	0.2836	0.4480	0.2836
偏心距離	e_p	mm	-----	-79	-----	-79
曲げ耐力	M_d		759.70	140.03	759.70	140.03
f_{ved}		N/mm ²	0.68	0.68	0.68	0.68
部材係数	γ_b		1.3	1.3	1.3	1.3
V_{cd}		kN	233.17	50.95	244.85	59.15
せん断補強筋の径	ϕ	mm	D19	D13	D19	D13
せん断補強筋の総断面積	A_w	mm ²	573.0	253.4	573.0	253.4
〃 設計降伏強度	f_{wyd}	N/mm ²	345	345	345	345
〃 降伏強度の特性値	f_{yk}	N/mm ²	345	345	345	345
〃 材料係数	γ_s		1.0	1.0	1.0	1.0
〃 部材軸となす角度	α_s	°	90	90	90	90
〃 配置間隔	S_s	mm	125	200	125	200
z		mm	503	365	503	365
部材係数	γ_b		1.1	1.1	1.1	1.1
V_{sd}		kN	723.17	145.04	723.17	145.04
$V_{yld2}=V_{cd}+V_{sd}$		kN	956.34	195.99	968.02	204.19
$\gamma_i \cdot V_{d2} / V_{wed2}$			0.08	0.20	0.10	0.29
$\gamma_i \cdot V_{d2} / V_{yld2}$			0.18	0.61	0.24	0.87

※ M_0 算出時の軸力は、桁端拡幅部はレベル1地震動による軸力、桁標準部はレベル1地震動および有効プレストレスによる軸力を考慮した。
※ 引張側鋼材は、桁端拡幅部は主桁埋込鉄筋、桁標準部はPC鋼材を考慮した。

正

iii) 安全性の検討

表-4.33 セン断に対する検討結果

			左加力時		右加力時	
			桁端増厚部	標準部	桁端増厚部	標準部
作用断面積 (主桁1本当たり)	V_{d2} N_{d2}	kN kN	137.1 60.1	93.6 60.1	185.2 225.1	141.7 225.1
構造物係数	γ_i		1.2	1.2	1.2	1.2
せん断力の設計用値	$\gamma_i \cdot V_{d2}$	kN	164.5	112.3	222.2	170
腹部の幅	b_w	mm	640	240	640	240
有効高さ	d	mm	578	420	578	420
設計基準強度	f'_{ck}	N/mm ²	50	50	50	50
材料係数	γ_c		1.3	1.3	1.3	1.3
圧縮強度の設計用値	f'_{cd}	N/mm ²	38.5	38.5	38.5	38.5
	f_{wed}	N/mm ²	7.76	7.76	7.76	7.76
部材係数	γ_b		1.3	1.3	1.3	1.3
斜め圧縮破壊耐力	V_{wed2}	kN	2208.14	601.70	2208.14	601.70
β_d			1.147	1.242	1.147	1.242
β_p			1.032	0.585	1.032	0.585
引張鉄筋比	p_v		0.0110	0.0020	0.0110	0.0020
引張側鋼材の断面積	A_s	mm ²	4053.6	197.4	4053.6	197.4
β_n			1.018	1.330	1.069	1.544
M_0			7.01	23.10	26.26	38.07
有効プレストレス	P_e	kN	-----	1504.8	-----	1504.8
総断面の断面係数	W_L	m ³	0.05227	0.02573	0.05227	0.02573
総断面の断面積	A_c	m ²	0.4480	0.2836	0.4480	0.2836
偏心距離	e_p	mm	-----	-79	-----	-79
曲げ耐力	M_d		759.70	140.03	759.70	140.03
f_{ved}		N/mm ²	0.68	0.68	0.68	0.68
部材係数	γ_b		1.3	1.3	1.3	1.3
V_{cd}		kN	233.17	50.95	244.85	59.15
せん断補強筋の径	ϕ	mm	D19	D13	D19	D13
せん断補強筋の総断面積	A_w	mm ²	573.0	253.4	573.0	253.4
〃 設計降伏強度	f_{wyd}	N/mm ²	345	345	345	345
〃 降伏強度の特性値	f_{yk}	N/mm ²	345	345	345	345
〃 材料係数	γ_s		1.0	1.0	1.0	1.0
〃 部材軸となす角度	α_s	°	90	90	90	90
〃 配置間隔	S_s	mm	125	200	125	200
z		mm	503	365	503	365
部材係数	γ_b		1.1	1.1	1.1	1.1
V_{sd}		kN	723.17	145.04	723.17	145.04
$V_{yld2}=V_{cd}+V_{sd}$		kN	956.34	195.99	968.02	204.19
$\gamma_i \cdot V_{d2} / V_{wed2}$			0.07	0.19	0.10	0.28
$\gamma_i \cdot V_{d2} / V_{yld2}$			0.17	0.57	0.23	0.83

※ M_0 算出時の軸力は、桁端拡幅部はレベル1地震動による軸力、桁標準部はレベル1地震動および有効プレストレスによる軸力を考慮した。
※ 引張側鋼材は、桁端拡幅部は主桁埋込鉄筋、桁標準部はPC鋼材を考慮した。